第１７号

# つつきの

平成２９年７月１日　発　行
京　田　辺　市
観光ボランティアガイド協会
広　報　部　編　集
☎　０７７４−６８−２８１０

## 平成２９年度事業計画

京田辺市観光ボランティアガイド協会は、平成２８年４月から一般社団法人京田辺市観光協会に団体会員として参画し、観光産業の一翼を担う事となり1年を経過しました。この間、関係各部署の多大なご協力と、会員の努力で２８年度も多くの事業を行う事ができました。合わせて御礼申し上げます。

本年２９年度は、１０名の新会員を迎え、総会員数40名の団体となりました。この機を利用し、２８年度の事業の継続は勿論の事ですが、新規の事業を企画し、観光事業の幅を更に広げていきたいと考えております。

平成２９年度事業計画の骨子は、以下の通りです。

１）京田辺市の産業振興ビジョンに沿った活動を展開する。

２）一般社団法人京田辺市観光協会のアクティブな観光関連団体として、市内の観光行政に関わる諸団体及び近隣の観光関連団体との連携を強化し、観光ガイドの更なる拡大を図る。

３）観光の必須条件「見る、聞く、食す。体験す」を取り入れたガイドコースの再構築を図る。

**「楽しく、無理せず京田辺市の歴史、文化を勉強し、これをガイドに活かす」**というモットーを基本に更なる向上を目指したいと思います。

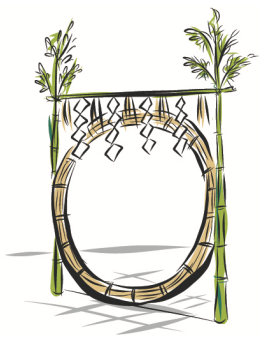
代表　　藤野　隆司

## 京田辺の祭りと神事　茅の輪くぐり

古来神社では、旧暦六月晦日に半年分の罪や穢れを祓い清め、疫病や災厄から免れるよう祈願する「夏越の祓」という神事が行われてきました。その時、鳥居や門または参道などに立てられた大きな茅の輪をくぐります。「みなづきのなごしの祓する人は千歳の命のぶというなり」などと唱和しながら、”８”の字に３回くぐるのだそうです。

なぜ”茅の輪”なのでしょうか。それには次のような言い伝えがあります。

「素戔嗚尊が旅の途中一夜の宿を求めたところ、弟の巨旦将来は裕福であったにもかかわらず宿泊を拒んだのに対して、兄の蘇民将来は貧しいながらも喜んで厚くもてなした。その数年後、再び蘇民将来のもとを訪ねた素戔嗚尊は『もし悪い病気が流行ることがあった時には、茅で輪をつくり腰につければ病気にかからない』と教えた。そして疫病が流行した時、巨旦将来の家族は病に倒れたが、蘇民将来とその家族は茅の輪で助かった。」～「備後の風土記」より



腰につけたという小さな茅の輪が、いつしか大きな茅の輪となり、それをくぐることで病気などの穢れを祓うというかたちになったそうです。

六月晦日の近 づく頃（七月に行うところもある）通りがかった神社の入り口に茅の輪を見付けたら是非一足のばしてくぐってみましょう。暑い夏もこれで元気に乗り切れるはず。

京田辺では、白山神社・佐牙神社・草内の咋岡神社・朱智神社などで毎年設けられています。

(大内)

# ガイド日誌

管外ガイド研修　　4月19日

## 「京の三珍鳥居を訪ねる」

6期生座学勉強会で学んだ古建築・門・鳥居・軒下組み物・仏像について実地見学兼勉強会を催した。

地下鉄東西線太秦天神川駅で下車し、歩いて木嶋神社（このしまじんじゃ）（蚕の社）へ。そこに建てられている三柱鳥居（三珍鳥居の一つ）を見学した。木嶋神社は秦氏ゆかりの神社といわれており、本殿の東隣に鎮座する蚕養神社はこの秦氏が持ち込んだ養蚕、機織、染色技術に因むと推測される。三柱鳥居は柱３本を三角形に組み、三方から中心の神坐を 拝することを可能とする珍しい形式の鳥居である。

次の広隆寺では、まず山門（楼門）について、続いて講堂・上宮王院太子殿、それぞれの建築の細部について説明を受けた。霊宝殿の参拝は昼食時間との兼ね合いから自由。霊宝殿内の国宝1号の弥勒菩薩半跏思惟像など実物を前に説明を受けた。その後近辺にて各自昼食をとった。そして帷子ノ辻駅から嵐電にて白梅町へ。嵐電に乗るのは久し振りでそれを楽しめた。白梅町の駅から10分ほど歩いて北野天満宮へ。三光門では「太陽・月・星」を探し国宝の本殿・石の間・拝殿が接続して一棟になった権現造の社殿の説明を受け、伴氏社（三珍鳥居の一つ）でさらに説明を受けた。お土居までは行かず、ここで解散。その後は各自で寺院見学をしたり、買い物したりしながら帰路に着いた。実学の勉強は感心したり記憶を思い起こしたりの再学習であったが有意義な一日だった。　　(園上)

京田辺ふれあいハイク　　5月14日

## 「新緑の法華寺で写経体験」

今回初の写経体験イベントには、遠くは明石市からの方を含め16名が参加。最初に毎年10月14日に大住隼人舞が奉納される天津神社を訪れた後、日蓮宗法華寺へ。到着すると、打ち水がされた涼やかな境内と冷えたお茶で迎えていただきました。

大曼荼羅御本尊、日蓮上人木造坐像などが祀られている本堂で、ご住職から寺の歴史、日蓮上人の教

えなどを拝聴したのち、 各自の願い事に合わせたお経を選択。書いた文字に息がかからないようマスクをし、真剣な面持ちで写経に取り組みました。 本堂には新緑の明るい光が入り、鳥のさえずりが聞こえる静かな時が流れました。

写経の後は庭のお茶席でお菓子とお抹茶をいただき、満たされた気持ちで、ご住職やご奉仕の皆様に見送られ、お寺を後にしました。

そして５世紀初頭に造られた前方後方墳、大住車塚古墳へ。最後は隼人族と関わりのある月読神社も訪れました。皆様からは、静かにゆっくりと写経ができてよかったとのお言葉をいただきました。少人数、これもまたよし、でした。　(新井)

京田辺ふれあいハイク　　５月２０日

## 「新緑の花木観察と史跡を巡る」

過去のふれあいハイクで花木・植物への関心が高まり、３年前より始めたこのコースは観光協会が設定している「いにしえ山の手コース」とほぼ同じです。天神社や月読神社など史跡にも恵まれ、数少ない田園風景が残りかつ京都市内が一望できる大展望地を歩きます。比叡山・愛宕山を中心に京都東山・北山・西山の連山が京都市内を取り囲む大展望を京田辺市から眺められるのが魅力です。

このイベントの特徴は花木観察。わざわざ桜の時期をはずして、萌えいずる新緑の５月に設定しました。樹木観察に最適の諏訪ケ原公園は緑一色。今回は４０種の樹木に番号札をつけ公園外も含め５０種類の樹木を紹介しました。また今回、新たに大住車塚古墳をコースに組み入れ里山風景も見られるようになりました。

ただ残念だったのは参加者の減少で今回は２５名。参加者の方の話では同様のイベントが多数重なりどこへ行こうか迷ったそうです。皆様、樹木の説明に関心をもたれ、盛んに質問や発言もあり、終始、和気あいあい賑やかに歩かれていました。　　（石橋）

## 平成29年　今後の行事　見どころ！　part 2

Coming Soon!

### 9月23日(土)

京田辺ふれあいハイク

## 「初秋の甘南備山から平安京を望む」

今年も実施します！歩行距離は**約12ｋｍ**。若干の高低差もありますので**健脚の方**を対象に設定しています。

十三参りでおなじみの虚空蔵堂の拝観、そして虚空蔵谷の沢をあるきオゾンいっぱいの滝を見学します。野外活動センターを経由する甘南備山の登山。少々骨が折れますが、秋を感じる爽やかな風はきっと皆さまを至福の時へご案内します。

平安京の朱雀大路の目印になったという白石そして三角点の見学。神南備神社にお参りし、展望台から遥か平安京を望み、当時に思いをはせましょう。

昼食後、今昔物語にも語られた甘南備寺などを拝観し帰路につきます。

それぞれのポイントで、ベテランガイドの案内が参加された皆さんの一層の興味を募らせることと思います！

担当　熊澤　正博

コース

JR松井山手駅―そよ風幼稚園―虚空蔵堂―虚空蔵谷川の滝―野外活動センター―甘南備山三角点・白石―神南備神社－展望台（昼食・休憩）－吉やんの滝―休寺―甘南備寺―JR京田辺

（集合：午前9時半　　解散：午後3時ころ）

### 10月８日(日)

## 「応神の酒.仁徳の繭糸.継体の宮跡を訪ねて」

古の昔、京田辺市と深い関わりを持った3人の天皇の旧跡を訪ねます！

**・応神天皇の酒伝説**

「古事記・中つ巻・応神天皇の章」には「また酒を醸む（かむ）ことを知れる人、名は仁番（にほ）、亦の名は須々許理（すすこり）等参渡り来ぬ）とあり、この須々許理が大御酒を献上すると天皇はこれお飲み、御歌を詠まれたとあります。佐牙神社の「延喜式佐牙神社本源記」には、酒の作り手「曾々保利伝説」が残っています。

古事記に登場する「須々許理」と佐牙神社本源記・新選姓氏録に登場する「曾々保利」は同一人物で、筒城に居住させたとあり、実際に近世まで、この地区には多くの酒屋があったとの事ですが現在はなくなってしまいました。

**・仁徳天皇、磐之媛の蚕伝説**

聖王と謂われた仁徳天皇が、或る時、皇后・磐之媛が新嘗祭を行うため、御綱柏（みつながしわ）を取りに紀伊国へ出かけている間に、八田の若郎女（わきいらつめ）を難波の宮へ入れました。磐之媛は嫉妬し、難波の宮に帰らず山城の筒木に住まいする韓人、奴理能美（ぬりのみ）の館に入られました。天皇と磐之媛との間を取り持つために奴理能美等3人は、三度形が変わる珍しい虫がいる事を伝え、天皇に行幸してもらうようにしました。この計らいで磐之媛に会われた仁徳天皇は、その後仲良く過ごされたが磐之媛は終生、ここ山城筒木で過ごされました。

京田辺市には古代の昔から、磐之媛（葛城氏）に関わる豪族（奴理能美）が住まいし、早くから養蚕の技術が伝承されていたと言われています。

**・筒木宮伝承地**

第２６代継体天皇は楠葉宮からここ筒城宮に移されました。この地域は息長氏とのつながりが強い地域であり、継体天皇は息長氏のバックボーンを得るためにここ筒城の地域に宮を置いたのではといわれています。（応神天皇5世の孫が継体天皇、応神天皇の母＝神功皇后（息長帯比売）は息長氏の媛）

更に、今年も10月8日に催される佐牙神社の山本のお旅所での**「山本の百味」**の神事(百味の祭壇)を見学します。

担当　園上　雅晴

## シリーズ①

# 「南山城三十三観音霊場巡り」

**「三十三観音」**とは、法華経普門品（ふもんぼん）に、観音様はいつでもどこでも三十三身に変化し、私達を救うとあります。

三十三観音霊場巡りは、養老２年（718）徳道上人から始まったとされますが、あまり一般庶民には浸透しませんでした。後に花山院（968～1008）が、熊野権現から託宣を授かり、徳道上人の三十三観音霊場巡りを再興したのがきっかけで、全国的に霊場巡りが広がりました。

「南山城三十三観音霊場」は1684年～88年ごろ東光寺の如範が発願開創したと云われています。

ルートは１番海住山寺から始まり、木津川市を経て相楽に入る。その後木津川の西岸の精華町を北上し、京田辺市に入り、普賢寺、飯岡を経過して、玉水橋を渡って再び木津川東岸の井出町に入ります。再び木津川市に入り、木津川沿いに南下し、和泉大橋に至ります。

但し、当時の南山城三十三観音霊場の内、1／3は廃寺となっています。廃寺になったお寺の観音像の一部は、近くの寺に保存されている場合が多いのですが、どこに保存されているのかは不明なお寺もあります。観音めぐりをしようと思われる方は事前に確認しておくほうが賢明です。

京田辺市も、１８番・宮ノ口観音寺、１９番・江津宮恵寺、２２番･興戸観音寺、２４番・飯岡蓮華寺が廃寺となっています。それぞれ廃寺となった仏像は客仏として壽寶寺、正福寺、光照寺、寿妙寺、阿弥陀寺等に保管されています。

大御堂　十一面観音立像

### 南山城三十三観音霊場

| 札番 | 霊 場 名 | 廃寺 | 本 尊 | 所在地 | 継承寺院 | 札番 | 霊 場 名 | 廃寺 | 本 尊 | 所在地 | 継承寺院 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 瓶原･海山山寺 | | 十一面観音 | 木津川市 | | 18 | 宮の口･観音堂 | | 十一面観音 | 京田辺市 | 法雲寺 |
| 2 | 瓶原･老宿坊 | | 十一面観音 | 木津川市 | | 19 | 江津宮･恵日寺 | ＊ | 千手観音 | 京田辺市 | 壽寶寺他 |
| 3 | 加茂･東明寺 | ＊ | 六観音 | 木津川市 | 収納庫 | 20 | 出垣内･念仏寺 | | 聖観音 | 京田辺市 | |
| 4 | 加茂･念仏寺 | | 十一面観音 | 木津川市 | | 21 | 普賢寺･大御堂 | | 十一面観音 | 京田辺市 | |
| 5 | 加茂･観音寺 | ＊ | 聖観音 | 木津川市 | 浄念寺他 | 22 | 興戸 ･観音寺 | ＊ | 聖観音 | 京田辺市 | 光照寺他 |
| 6 | 鹿背山･浄勝寺 | ＊ | 千手観音 | 木津川市 | 西念寺 | 23 | 北他 ･日光寺 | | 聖観音 | 京田辺市 | 無住 |
| 7 | 上津･誓願寺 | | 十一面観音 | 木津川市 | | 24 | 飯岡 ･蓮華寺 | ＊ | 十一面観音 | 京田辺市 | 壽寶寺他 |
| 8 | 木津･観音像 | ＊ | 聖観音 | 木津川市 | | 25 | 水無 ･東福寺 | ＊ | 聖観音 | 井出町 | 西福寺 |
| 9 | 市坂･観音堂 | | 十一面観音 | 木津川市 | | 26 | 井出山･栄福寺 | ＊ | 千手観音 | 井出町 | 地蔵院 |
| 10 | 相楽･法泉寺 | | 十一面観音 | 木津川市 | | 27 | 石垣 ･観音寺 | ＊ | 十一面観音 | 井出町 | 西福寺 |
| 11 | 祝園･善福寺 | | 十一面観音 | 精華町 | | 28 | 綺田国見･観音堂 | | 聖観音 | 木津川市 | |
| 12 | 南庄･願成寺 | ＊ | 十一面観音 | 精華町 | 蓮台寺 | 29 | 綺田 ･蟹満寺 | | 聖観音 | 木津川市 | |
| 13 | 北稲･観音寺 | | 十一面観音 | 精華町 | | 30 | 平尾 ･福王寺 | ＊ | 十一面観音 | 木津川市 | 十輪寺 |
| 14 | 北稲･岡本寺 | ＊ | 聖観音 | 精華町 | | 31 | 神童寺･蔵王堂 | | 聖観音 | 木津川市 | |
| 15 | 下狛･神宮寺 | ＊ | 十一面観音 | 精華町 | | 32 | 狛松の尾･伝興寺 | ＊ | 聖観音 | 木津川市 | 不明 |
| 16 | 下狛･若王寺 | | 千手観音 | 精華町 | | 33 | 地蔵の前･泉橋寺 | | 聖観音 | 木津川市 | |
| 17 | 菱田･長福寺 | | 十一面観音 | 精華町 | 西芳寺 | | | | | | |

★京田辺市内の観音霊場についてはシリーズ②で紹介します！